

## 「思い煩うな」

2023年07月28日

「だから、何を食べようか、何を飲もうかとあくせくするな。また、思い悩むな。それらはみな、世の異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの父は、これらのものがあなたがたに必要なことをご存じである。ただ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらものは添えて与えられる。小さな群れよ、恐れるな。あなたがたの父は喜んで神の国をくださる。自分の財産を売って施しなさい。古びることのない財布を作り、尽きることのない宝を天に積みなさい。そこは、盗人も近寄らず、虫も食い荒らさない。あなたがたの宝のあるところに、あなたがたの心もあるのだ。」（ルカ12：29～34）

主イエスは弟子たちに、「だから、言っておく。命のことで何を食べようか、体のことで何を着ようかと、思い煩うな。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服より大切だ」と語り始めた。食べ物は命を支え、衣服は体を守る。人は皆、食べ物、衣服のことで思い煩うのである。ところが主イエスは、「<sup>からす</sup>鳥のことを考えてみなさい。種も蒔かず、刈り入れもせず、納屋も倉も持っていない。だが、神は鳥を養ってくださる。まして、あなたがたは、鳥よりもどれほど優れた者であることか。あなたがたのうちの誰が、思い煩ったからといって、寿命を僅かでも延ばすことができようか」と続けられた。<sup>からす</sup>鳥は汚れた鳥として忌み嫌われた動物である。その鳥でさえ、神は養い、育ててくださる。「野の花がどのように育つかを考えてみなさい。働きもせず、紡ぎもしない。しかし、言っておく。栄華を極めたソロモンでさえ、この花の一つほどにも着飾ってはいなかった。今日は野にあって、明日は炉に投げ込まれる草でさえ、神はこのように装ってくださる。まして、あなたがたには、なおさらのことである。」野生の野の花でさえ、その装いは、きらびやかさを尽くしたソロモンが着飾ったものより、はるかに勝る。空の<sup>とり</sup>鳥、野の花は思い煩うことなく、神の守りの中で、あるがままに大らかに生かされている。あなたがたを愛する神は、空の鳥や野の花以上の守りを与えてくださっている。思い煩ったからといって、寿命が延びる訳でもない。この言葉は弟子たちに語られているが、その背後にはガリラヤの民衆がいる。彼らは、政治的、経済的、宗教的にも収奪され、貧しい生活を強いられていた。何を食べようか、何を着ようかと、日々、思い煩って生きていた。

主イエスは彼らの思い煩いを知って、「信仰の薄い者たちよ」と呼びかけ、下記のように語れた。何を食べようか、何を飲もうかとあくせく、思い悩むな。それらは、神を知らない異邦人が熱心に求めているものだ。天の父は、あなたがたに必要なことを知っておられる。「神の国」を求めなさい。そうすれば、必要なものは与えられる。恐れることはない。天の父は貧しい者と分かち合って、共に生きる「神の国」をくださる。自分の財産を売って施し、古びることのない財布を作り、尽きることのない宝を天に積みなさい。天の宝は盗人から奪われず、虫にも食い荒らされることはない。あなたがたの宝と思うところに、あなたがたの心がある。

著者ルカは、あなたがたは空の鳥や野の花より愛され、必要を満たしてくださるから、食べ物、飲み物に思い煩わされるなど、主イエスが諭した神に委ねる信仰を伝えている。そして、互いに分かち合って生きる「神の国」を、心を寄せる宝としなさいと語りかけている。むき出しの利益を求める世にあって、互いの不足を補い合って、喜びを分かち合うことが福音であるからである。